

# 第4回

## 登録建築測量基幹技能者講習 修了試験問題

一般社団法人全国建築測量協会

1. 試験時間 60分

2. 問題数 25問

3. 注意事項

- (1) 試験問題は、試験開始の指示があるまで開かないでください。
- (2) 受講番号と氏名は、問題用紙および解答用紙のそれぞれの所定の欄に必ず記入してください。
- (3) 机上には、受講票・筆記用具・計算機以外のものは置かないでください。
- (4) 携帯電話、スマートウォッチ等の通信機能のある機器は、電源を切りカバンの中に入れて下さい。
- (5) 解答はマークシートに鉛筆かシャープペンシルで記入してください。それ以外のボールペン筆などを使用した場合は採点できません。
- (6) 問題は四肢択一方式です。正解と思う番号を次の例に従って塗りつぶしてください。

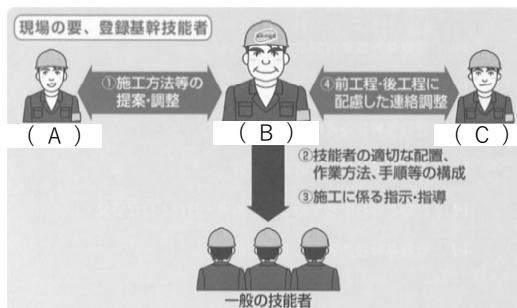
マーク例 ● (濃くマークしてください。はみ出し注意)

- (7) マークを訂正する場合は、消しゴムできれいに消して訂正してください。
- (8) 試験開始後30分間は退出できません。30分経過後に解答が終了した場合は、黙って手を挙げて試験官の指示に従って退室して下さい。退室後は試験終了まで再入室ができません。
- (9) 問題用紙は、試験終了後に回収しますので持ち帰らないようにしてください。

【問 1】 登録基幹技能者に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

- ① 登録基幹技能者とは、プロジェクト全体を統括的に管理する者である
- ② 登録基幹技能者とは、職長として熟達した作業能力と豊富な知識を持った者である
- ③ 登録基幹技能者とは、マネジメント能力に優れた者である
- ④ 登録基幹技能者とは、国土交通大臣の登録を受けた機関が資格認定した者である

【問 2】 登録基幹技能者に関する次の図の（ A ）～（ C ）に当てはまる語句として、最も適当な組み合わせはどれか。



- ① A：元請技術者 B：登録基幹技能者 C：他の職長等
- ② A：設計者 B：登録基幹技能者 C：他の職長等
- ③ A：登録基幹技能者 B：元請技術者 C：他の職長等
- ④ A：他の職長等 B：登録基幹技能者 C：元請技術者

【問 3】 OJT 指導教育の基本に関する記述のうち、最も不適当なものはどれか。

- ① 信頼とコミュニケーション
- ② 適性に合わせた指導育成
- ③ 1年に1度の研修実施
- ④ 幅広い職務能力の育成

【問 4】 適用除外申請を行わない場合に、社会保険の加入義務に関する次の表の

（ A ）と（ B ）に当てはまる語句として、最も適当な組み合わせはどれか。

事業所の形態	常用労働者の数	就労形態	健康保険	年金保険	雇用保険
法人	1人～	常用労働者	協会けんぽ	厚生年金	加入
	-	役員等	協会けんぽ	厚生年金	適用除外
個人事業主	5人～	常用労働者	協会けんぽ	厚生年金	加入
	1～4人	常用労働者	国民健康保険	国民年金	( A )
	-	一人親方	国民健康保険	国民年金	( B )

- ① A：加入 B：適用除外
- ② A：加入 B：加入
- ③ A：適用除外 B：加入
- ④ A：適用除外 B：適用除外

【問 5】 PDCAサイクルに関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

- ① Plan=計画を立てる
- ② Do=計画に基づき実施する
- ③ Check=結果と計画を比べ検討する
- ④ Action=報告書を提出する

【問 6】 施工計画に関する次の記述のうち、流れとして最も適当なものはどれか。

- ① 管理計画→事前調査→基本計画→詳細計画
- ② 事前調査→基本計画→詳細計画→管理計画
- ③ 事前調査→管理計画→基本計画→詳細計画
- ④ 基本計画→事前調査→詳細計画→管理計画

【問 7】 安全管理計画のハインリッヒの法則に関する次の記述のうち最も適当なものはどれか。

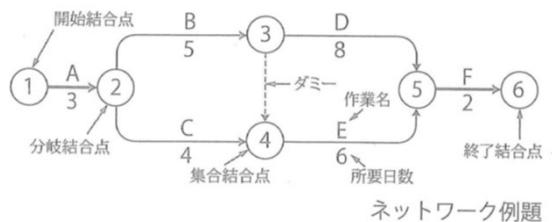
- ① 1（死亡・重傷）：29（軽傷）：100（無傷災害）
- ② 1（死亡・重傷）：29（軽傷）：200（無傷災害）
- ③ 1（死亡・重傷）：29（軽傷）：300（無傷災害）
- ④ 1（死亡・重傷）：29（軽傷）：400（無傷災害）

【問 8】 日程計画に関する次の式の（ A ）に当てはまる語句として最も適当なものはどれか。

$$\text{作業可能日数} \geq \text{所要作業日数} = \frac{\text{工事量}}{( \text{ A } )}$$

- ① 1日あたりの平均休憩量
- ② 1日あたりの平均稼働量
- ③ 1日あたりの平均予算
- ④ 1日あたりの平均施工量

【問 9】 下記ネットワーク例題の記述について最も適当な組み合わせはどれか

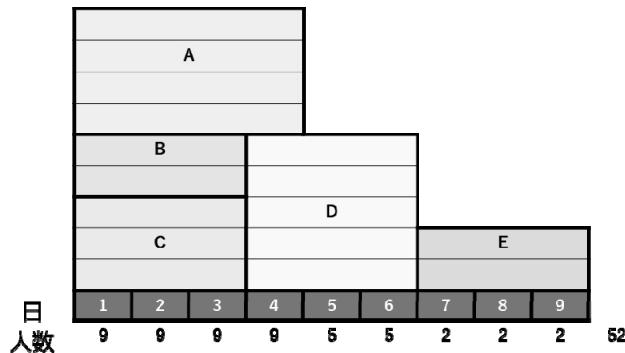


- ① ④の最早開始時刻(EST)は8で、最遅終了時刻(LFT)は10である
- ② ④の最早開始時刻(EST)は8で、最遅終了時刻(LFT)は8である
- ③ ④の最早開始時刻(EST)は7で、最遅終了時刻(LFT)は10である
- ④ ④の最早開始時刻(EST)は7で、最遅終了時刻(LFT)は8である

【問 10】 ネットワーク工程表の下記記述について最も適当なものはどれか。

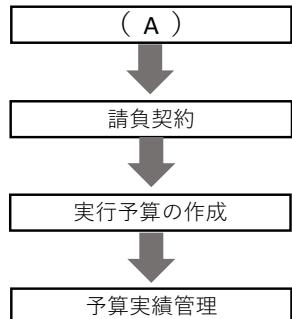
- ① クリティカルパスとは、最遅完了時刻で完了するときの最大の余裕時間のことである
- ② クリティカルパスとは、トータルフロートがゼロの経路のことである
- ③ クリティカルパスとは、作業の順序のことである
- ④ クリティカルパスとは、最も早い作業開始時刻のことである

【問 11】 次の山積み表の『B工事』にかかる合計人数と日数で、最も適当なものはどれか。



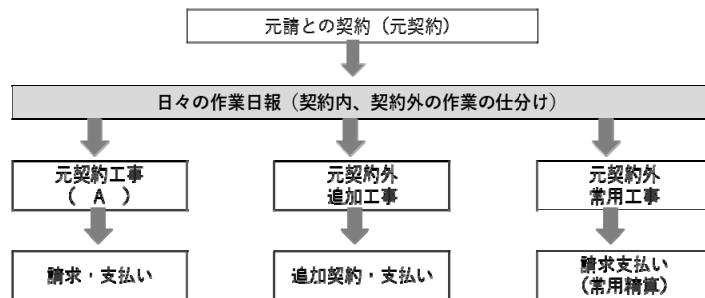
- ① 合計人数：15人　日数：3日
- ② 合計人数：9人　　日数：3日
- ③ 合計人数：19人　日数：4日
- ④ 合計人数：6人　　日数：3日

【問 12】 原価管理計画に関する次の表の（ A ）に当てはまる語句として最も適当なものはどれか。



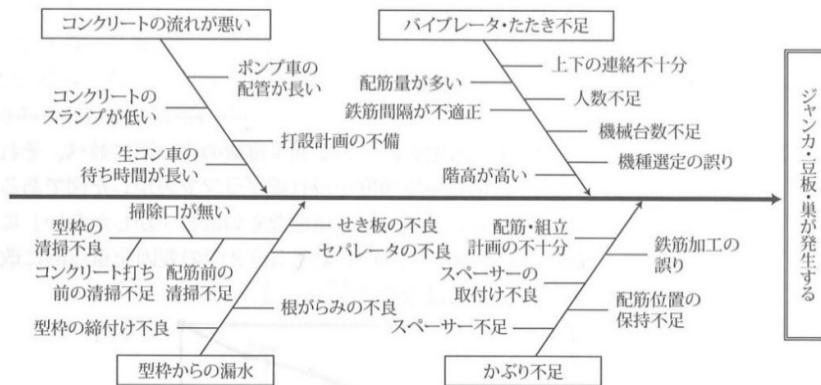
- ① 見積原価の管理
- ② 標準原価の管理
- ③ 実際原価の管理
- ④ 製造原価の管理

【問 13】 予算実績管理に関する次の表の（ A ）に当てはまる語句として、最も適当なものはどれか。



- ① 出来高査定
- ② 売買査定
- ③ 見積査定
- ④ 予算実績管理

【問 14】 QC7つ道具に関する以下の図の名称として最も適当なものはどれか。



- ① 散布図
- ② 管理図
- ③ パレート図
- ④ 特性要因図

【問 15】 次の計算式の（ A ）に当てはまる語句として、最も適当なものはどれか。

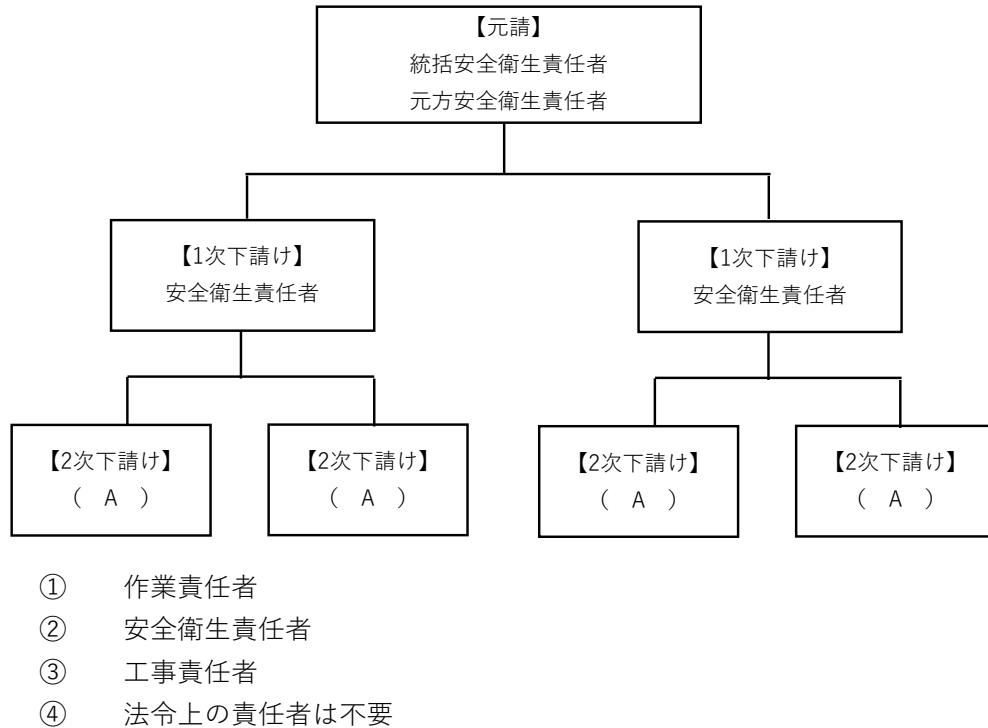
$$( A ) = \text{労働災害による死傷者数} / \text{延労働時間数} \times 100\text{万時間}$$

- ① 強度率
- ② 年千人率
- ③ 重大災害率
- ④ 度数率

【問 16】 安全衛生規則により推奨される墜落防止対策に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

- ① 作業床は幅が40cm以上とし、かつ、床材の隙間が3cm以下とする
- ② 高さが2m以上のところで作業を行う場合は作業床を設置する
- ③ 作業床の設置が設置困難な場合には落下防止ネットを張り墜落制止用器具を使用させる
- ④ 手すりは床面から85cm以上であれば中さんを設ける必要はない

【問 17】 次の表の（ A ）に当てはまる語句として、最も適当なものはどれか。



【問 18】 労働安全衛生法第30条では、特定元方事業者（元請業者等）が講ずべき措置として、協議組織の設置および運営を行うことが定められている。この協議組織の名称として、次の語句のうち最も適当なものはどれか。

- ① 安全衛生協議会
- ② 作業間調整会議
- ③ 施工計画協議会
- ④ 品質検討会

【問 19】 労働安全衛生法では会社経営者が現場にいなくても、現場責任者である職長に労働安全衛生法違反があれば、会社にもその責任が及ぶ事が定められている、この事をなんというか。  
次の語句から最も適当なものを選べ。

- ① 処罰規定
- ② 使用者責任
- ③ 兩罰規定
- ④ 法令違反

【問 20】 リスクアセスメントに関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

- ① 作業を始める前に（計画段階で）、その作業に潜むリスク（危険な物、有害な物）を洗い出す
- ② 洗い出したリスクそれぞれはどの程度の頻度で発生するのか、どのくらいの怪我、病気になるのかなどリスクの大きさを予想（見積り）する
- ③ 予想したリスクそれぞれについて大きなものから順に、許容できないリスクはすべて対策をたてる
- ④ 作業後に対策を実施し許容できないリスクを減らす

【問 21】 赤伝処理に関する記述として、最も不適当なものはどれか。

- ① 赤伝処理を行う場合は、元請負人と下請負人双方の協議・合意が必要である
- ② 赤伝処理を行う場合は、その内容について合意があれば、見積条件・契約書面に明示する必要はない
- ③ 適正な手続に基づかない赤伝処理は建設業法に違反するおそれがある
- ④ 差引額については下請負人の過剰負担とならないよう十分に配慮することが必要である

【問 22】 トータルステーションの距離測定に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

- ① トータルステーションの距離測定には、位相差測定方式とパルス測定方式がある
- ② トータルステーションの距離測定は、位相差測定方式とパルス測定方式とともに、水平距離を測定している
- ③ 位相差測定方式とは、一定周期で強弱を変化させた測距光を用い、発せられた光と反射してきた光の間に距離に応じて生じる位相差から距離を求める方式
- ④ パルス測定方式とは、ごく短い時間点灯させた測距光を用い、点灯した時刻と測距光が反射して戻ってきた時刻の差から距離を求める方式

【問 23】 通り心（基準線）の設定に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

- ① 通り心の追い出しどとなる敷地境界や既存建物などはあらかじめ監理者、元請け職員と現地にて確認を行う
- ② 実地において追い出す距離は、水平距離である
- ③ 日本で用いられている平面直角座標は全国で19の座標系に区分されている
- ④ 縮尺係数についての確認や、通り心設定方法を決定するのは、建築測量技能者である

【問 24】 基準レベルの設定に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

- ① 各階基準レベルの追い上げは、2カ所以上で行い、追い上げ誤差や間違いがないことを確認する
- ② 各階基準レベルの追い上げは、S造の場合は鉄骨歪み直し完了後に、実施することが望ましい
- ③ 各階基準レベルの追い上げは、建物の軸縮み予想量により、階高を設計寸法と異なる値で設定する場合がある
- ④ 基準レベル設定場所は、後になって確認できる連続した同一面が望ましい

【問 25】 鉄骨工事の墨出しに関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

- ① 鉄骨柱は、工場での鉄骨作成時に誤差が発生している場合があるので、柱頭位置で計測を行うことが望ましい
- ② 鉄骨歪み直しをトータルステーションによる座標管理で実施する場合は、柱の側面を計測するので、柱のねじれに注意が必要である
- ③ 日本建築学会JASS6によれば、柱の倒れの管理許容差は、 $e \leq H/1000$ かつ $e \leq 10\text{mm}$ である
- ④ 鉄骨階段取り付け用の墨出しは、鉄骨歪み直し完了後に、実施することが望ましい

2025 年 第 4 回

登錄建築測量基幹技能者講習 修了試験問題解答

問 1	問 2	問 3	問 4	問 5
①	①	③	①	④

問 6	問 7	問 8	問 9	問 10
②	③	④	①	②

問 11	問 12	問 13	問 14	問 15
④	①	①	④	④

問 16	問 17	問 18	問 19	問 20
④	②	①	③	④

問 21	問 22	問 23	問 24	問 25
②	②	④	②	④

配点

4 点 × 25 問 = 100 点

合格基準

登錄建築測量基幹技能者認定講習修了試験において、100 点満点で 60 点以上を取得した者を合格者とする。